



山中で発見された
海中の王者

中生代白亜紀後期、ティラノサウルスが地上の王者なら、海中の王者だったのがモササウルス。その化石が発見されたのは有田川^{とやじょうせん}鳥屋城山、昔から化石が発掘されることで有名な山中だった。東アジアでは日本以外でモササウルスの発見例はなく、頭骨や脊椎骨、肋骨、前後のヒレの骨等がそろった日本唯一の標本で、世界的にも貴重なものとして注目を集めている。また2018年には、西日本初となる「魚食性恐竜スピノサウルス」の化石が、湯浅町の海岸で発見された。有田川沿いは、多くの化石が発見されるエリアとして注目を集めているという。

和歌山県立自然博物館
住所 / 海南市船尾370-1
電話 / 073-483-1777



①モササウルス類の一種の全身骨格化石。「化石を含んだ大量の岩が運び込まれた時、途方もない作業を考え目眩がしました(笑)」と県立自然博物館の主任学芸員小原正頭(おはらまさあき)さん。5~7人掛かりでクリーニングをはじめ、全て終えるには5年もの歳月が必要だったという。②モササウルスの生体復元模型 制作: 古田悟郎(海洋堂)。③スピノサウルス類の歯の化石。モササウルスやスピノサウルスはハリウッド映画にも登場し、人気があるのだとか。

11月28日~2020年2月9日/全身標本が展示される企画展「モササウルス復元プロジェクト」開催

WAKAYAMA LOCATION



断崖も眩む
絶壁の
映えスポット?



目も眩むような断崖絶壁に立つ姿。まるでグランドキャニオンのような景色が和歌山にも!?実はこれ、人気のインスタ映えスポットで、標高870mの生石高原にある火上げ岩から撮影したもの。写真を撮る角度によって、長峰山脈などが足元にあるように見えるだけでそれほど断崖ではない。実際、すぐ下にはススキの草原が広がり、昔は火を焚いて「雨乞い」の儀式をする場所だったといわれている。

生石高原
所在地 / 有田郡有田川町・海草郡紀美野町

和歌山県が
宇宙に近くなる!



提供:スペースワン株式会社



8月25日に行われた「宇宙ンボジウム in 串本」。ロケットの打ち上げ射場建設の地元、串本町で行われたが、会場が満席となるほど注目を集めている。

和歌山県産業技術政策課
電話 / 073-441-2355

大型の衛星を打ち上げる国家プロジェクトに対し、小型衛星を小型ロケットで打ち上げる民間宇宙ビジネスが注目を集めている。利便性の高い宇宙輸送サービスを目指すスペースワン株式会社は、2019年民間による初のロケットの打上げ射場を串本町田原周辺に建設することを発表。2021年の運用開始に向けて工事が着工された。射場の建設にあたり、打上げ方向である南東側に空間が開けていることや、ロケットを工場から搬入するための輸送経路が確保できることなど、いくつかの条件をクリアしたのが串本町だった。本州最南端であるまちは、宇宙に近いまちとなる。



隣り合う二つの地層にある
一億年の隔たり

真っ白な岩と青い海が特徴的な白崎海岸。その美しくも不思議な海岸線は、日本のエーゲ海とも称される。しかし不思議なのは白い岩だけではない。白い岩は石灰岩で、フズリナなどの原生生物の化石が発見されることから3~2.5億年前の地層と考えられる。また石灰岩の周辺にある土色の砂岩や泥岩は、中紀層群と呼ばれる地層で1.8~1.3億年前のもの。なんと1億年もの年代差がある地層が、混在しているという不思議な場所なのである。石灰岩を構成する古い地層が北上しながら大陸プレートの下に潜り込む時に、周囲の砂や泥と混じり合った付加体となり、それらが地殻変動により隆起し、白崎海岸を作ったと考えられている。不思議な海岸は、地球が作るあまりにも長い奇跡の物語である。

由良町にある白崎海岸。白く美しい海岸線は、万葉集の和歌でも詠まれた。石灰岩は生物起源のものが多く、白崎の石灰岩もフズリナやウミユリ、サンゴの死骸が堆積してできたもの。



①串本町大島の東端断崖に建つ檜野崎灯台。潮岬灯台とともに、幕末にアメリカ等の4ヶ国と結んだ条約により建てられたことになった8ヶ所の条約灯台のひとつ。串本町に条約灯台が二基も建てられたことから、海上交通の要衝であったことがわかる。②当時の様子を解説したジオラマや写真、船の模型などが展示されている日米修交記念館。③エルトゥールル号殉難将士慰霊碑。事故の際に大島島民が行った献身的な救助活動は、その後の日本とトルコの友好関係の原点とされており、2020年は事故から130年という節目を迎える。

本州最南端は
世界と繋がる
海路の要衝地



串本町大島は、公文書に記録された初めての日米間接触の地である。それはペリーの来航より62年も遡る1791年、2隻のアメリカ商船が貿易のために大島に上陸したというものであった。本州最南端であり八丈島とほぼ同じ緯度にある大島は、アメリカにとってアクセスしやすい日本だったのかもしれない。その後の1890年、トルコ軍艦エルトゥールル号が帰国途中、台風による強風と高波により、串本町檜野崎沖で座礁し沈没するという大惨事が起きた。大島の南側は、古くから航海の難所として船乗りたちに恐れられていたが、避けては通れない海上交通の要衝地であったために起きてしまったと考えられる。串本町は、本州最南端のまちである故、古くから世界と密接に繋がっていた。